

提出日 2025 年 2 月 2 日  
天理大学国際学部中国語学科 3 回生  
内藤航

## 留学報告書

まず環境の面では、山の上にある大学のため、風が強い事が印象的でした。強風が吹いているだけでなく、雨が降ることも多く台風が直撃した際はこれまでに経験したことのない強風と豪雨を体験しました。1 週間太陽が見られない日もありましたが、天気の変化が激しいこともあり、留学中に何度も大きな虹を見る事ができました。留学中生活していた寮が大学の敷地内にあったので、山の下に用事がある時はバスを使って移動していました。バスで山を降りるのに 20~30 分かかりますが 15 元と安い値段で移動できました。

学習の面で特に授業の様子は日本の大学と似ていました。私が印象に残ったことは文化大学で授業を受ける際に使用する机と椅子がつながっていて机がとても小さかったことです。教科書を広げたらノートを置くスペースがない程の大きさでした。

私は留学生が多く集まる授業を受講していて、中国語のレベルも人それぞれだったためグループワークをする際に中国でコミュニケーションが取れない場合に英語を使う必要があり大変だと感じました。

テストは 1 学期の中で中間テスト、期末テストの 2 回あり、ペーパーテストもあればスピーチ型のテスト、グループでの発表のようなテストもありました。

生活や寮の面では、苦労した事が多くあります。特に苦労したのは夏休みの間のみ生活した寮の衛生環境です。夏休みの期間のみ体育館の近くの寮に移動するのですが、その寮内でよく虫を見かけました。山の上に位置しているので仕方ないところはありますが、私は特別虫が苦手なので引っ越した初日に絶望したのを覚えています。部屋の中では滅多に出ませんでした。寮内にはたくさんの虫がいるので部屋の出入りの際ドアの開けっぱなしにはとても注意しました。

寮生活では対人関係でも少し苦労しました。私は留学中に 3 回の引っ越しをしました。まずは夏休みの際の移動、次に夏休み後の移動、最後にルームメイトとの生活習慣の違いでの部屋の移動です。夏休み後に 2 週間ほど生活していた部屋は 3 人部屋で私以外の 2 人は台湾人の学生でした。この 2 人は朝方までパソコンゲームをしていたことや、冷房の温度設定が極端に合わなかったことで夜睡眠を十分に取ることができずに引っ越しすることに決めました。最後の引越し先の部屋のルームメイトも台湾人の学生でパソコンゲーム好きでした。気になって台湾人の友人に聞いてみたところ台湾人の学生はパソコンゲーム好きが多いことがわかりました。

寮生活をして良かった点は、いろいろな国の人と関われる事です。夏休みの期間に生活

していた部屋のルームメイトには南アフリカ人の留学生がいました。そこで南アフリカの文化を聞いたりその地域にある特別な儀式をするときの衣装を実際見してもらったりしました。英語を話す機会も増えました。たくさんの国から留学生が来ているのでそれぞれの生活習慣や文化を知る事ができるところが良かったと思います。

寮での生活では苦労したこともありましたが、留学を終えて、振り返ってみるととても多くの収穫がありました。日本を出発するときは楽しみな気持ちよりも不安な気持ちの大きかったです。初日は何一つ単語を聞き取ることができなくて心が折れかけました。日本で2年間勉強してきたのにこんなにもわからないのかと自信を無くしました。しかし1年が経ち帰国するときには、台湾にもっといたい、台湾を離れるのは寂しいと感じていました。私がそう思えた最も大きな要因は部活に参加したことだと感じています。

私は日本の大学でもバスケットボール部に所属していたため、台湾に到着してすぐに国際センターの先生に部活に参加したいと伝えました。すると台湾に来てから2ヶ月後から部活に参加することができました。参加し始めの時はやはりチームメイトの話していることがなかなか理解できずに馴染めずにいましたが、毎日練習に参加していました。すると2、3ヶ月が経って夏休みに入る頃には話の内容が少しわかったり練習の後に一緒にご飯に行ったりする機会も増えました。

部活に馴染んできてチームメイトと仲良くなってきた夏休みの期間に自分にとって大きな思い出になった出来事がありました。それは日本から天理大学のバスケットボール部が台湾の文化大学に来て試合をしたことです。天理大学が台湾に来る前の連絡や、来てからの天理大学のコーチと文化大学のコーチがコミュニケーションをとる際に自分が中国を使ってサポートするという場面もあり実践的な中国語が使えて嬉しかったです。試合では、私は文化大学側で出場し天理大学に勝つことができました。この試合に出場し、勝つ事ができたことが留学生活の中で1番の嬉しい思い出になりました。

その後も帰国ギリギリまで部活に参加し続けました。帰国する際にはたくさんのメッセージをくれたました。初めは会話も理解できず部活に参加する事がストレスに感じる時さえありましたが、毎日参加したことでチームメイトと深い関係を築くことができたと思います。

帰国するときに台湾にもっといたい、台湾を離れたくないという気持ちになったのは部活を通じてできた多くの台湾の友達のおかげだと思います。この1年間で言語の上達はもちろんありましたが、一番の成果は台湾人の友達をたくさん作れたことだと感じています。